

農業の新たな可能性を伊奈町から発信!

大橋 一幸さん
ベジタブルボーイズカンパニー 農業家

キラキラTown 伊奈

「日本の文化」に関わりたいたいという思いから農業の道へ

「日本の文化」に関わる“何か”がしたいと考えていた高校時代、「農業も日本の文化を守る職業」という先生の一言に幼い頃の記憶がリンクしました。近所のおばあちゃんとイナゴ捕りをしたり、用水路で魚やザリガニを捕って遊んだ思い出は時を経ても色あせていなかった。そんな自分が体験したこと、感じた風景を次代に残したい。カッコよく言うと、「日本の農業を守りたい」って思いました。



実際に仲間と農業を始めて感じたことは「地域の温かさ」です。畑仕事をしていると、必ず声をかけてくれたり、暑い日には飲み物を差し入れてくれたり。地域の人が温かく見守ってくれているというのを日々、肌で感じています。



埼玉県農業大学校を卒業後、仲間たちと「ベジタブルボーイズカンパニー」を設立。年間150種類ほどの季節の野菜を直営の野菜直売所で販売しているほか、県内のスーパーや飲食店に卸しています。

固定観念にとらわれず仲間たちと切り拓く農業の“未来”

2020年11月に新たな農業の発信拠点となる直売所とカフェスペースを設けた「ベジボーイキッチン」をオープンしました。直売所だけでなく、野菜を使った惣菜やお弁当も提供。ヨーロッパ野菜など珍しい野菜も自分たちの売りなので、その魅力をちゃんと伝えるという「発信者」としての役目を果たしていきたいですね。

これからも、「農業」という固定観念にとらわれず、農業のいろいろな可能性に挑戦したい。海外展開もその一つですし、「無人コンビニ」ならぬ、「無人畑」で消費者自身に収穫してもらうのも面白い。伊奈町で実践する新しい農業の形がほかの地域にも広がっていけば、結果的に「日本の文化」を守ることになりますし、少し大げさだけど、日本の未来を守ることもつながると思っています。

「野菜の生産から食べるまでをマネジメントできれば、もっと野菜を食べてもらえるのでは」という期待を込めた農園レストラン「VEGEBOY KITCHEN(ベジボーイキッチン)」。大橋さんの挑戦はこれからも続きます。



大好きな伊奈町で、ママの笑顔を増やしたい

丸崎 麻衣さん
保育士 「おひるねアート」講師

伊奈町に漂う、ゆったりとした空気感がお気に入り

伊奈町に生まれ育って一度も伊奈町から出たことがありません(笑)。のんびりしていて、温かみがあって、近所のつながりもすごくあるんです。うちは割とお年寄りが多い地域ですが、「昔はこうだった」と押し付けるのではなく、「若い人の意見も聞くよ」という雰囲気があって、幅広い年代がみんな協力して地域活動をしている感じです。

こうした「人」とのつながりがあると、子育てもしやすいですね。みんなが温かく見守ってくれているのをすごく感じます。そんな温かい地域で自分も「何かできることを」って考えて始めたのが、「おひるねアート」です。もちろん、自分のペースで働けることに魅力を感じたのもあります。

おひるねアートは赤ちゃんに背景や小物をつけて撮影するもの。カメラマンはママです。子育て中ってどうしても家にこもりがちになってしまいます。だから、おひるねアートをきっかけに外出して子どもの可愛い姿を見てママたちに笑顔になってほしいですね。



キラキラTown 伊奈



世代を超えて伝えていきたいふるさとの原風景

県内最大のバラ園、無線山・KDDIの森の桜並木のトンネル、田んぼと新幹線の風景。私が大好きな場所はいっぱいあります。実は父も伊奈町が好きで、よく伊奈町自慢を聞かされていました。私も子どもを産んで父の思いがとてもよくわかりました。世代を超えて伝えられるものがあるって、とても大切なこと。これからも、ゆったりと流れる「伊奈町らしさ」はずっと変わらずにいてほしいですね。



「おひるねアートは会場選びから設営・準備まですべて自分でこなします」と丸崎さん。親子の笑顔を見られること、自分のスタイルで働けることが魅力だそうです。

